

2023

6-7月

はしかけニューズレター

2023年度 第2号 通巻171号

2023年(令和5年)6月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
(10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
(14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
(23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 … 365人
グループ数 25グループ
(2023年 5月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

新緑が鮮やかな6月になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う活動制限の緩和により、はしかけ活動も活発化することが期待されます。これまで抑えてこられた情熱を、新たなエネルギーとなって発揮していきましょう。新たなプロジェクトやイベントの企画、メンバー同士の交流など、多彩な活動に期待しています。

心地よい風を感じながら、前向きに取り組め楽しく充実した日々を送りましょう。素敵な初夏をお過ごしください！

■新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う「はしかけ」の活動基準について

はしかけ活動については、新型コロナウイルスの「5 類移行」に伴い活動基準を下記の方針としましたのでご留意ください。

屋内…活動可

屋外…活動可。

・屋内活動については、部屋の定員を超えないよう活動する。

・自動車で乗り合いされる場合には、換気に十分注意する。

※活動の実施にあたっては、メンバーや担当学芸員と相談の上、引き続き感染症対策を十分に行なうようお願い致します。

■ギャラリー展「プッカプカ美小生物展」について

「微小生物×アート！」をテーマにしたギャラリー展「プッカプカ美小生物展」を行います。微小生物を題材にしたポップなキャラクターたちと、本格的な微小生物の日本画や、巨大ミジンコ「ノロ」のカラダの秘密を見てもらうことをコンセプトにしています。期間は2023年5月5日(金)～6月11日(日)です。

■企画展「おこめ展 —おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」について

お米をテーマにした企画展「おこめ展 —おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」を行います。おこめをテーマに、琵琶湖博物館ならではの多様な研究領域からなる展示によって、田んぼを場とした生態系、イネの植物学的情報、おこめと文化、おこめ調理の歴史を紹介します。期間は2023年7月15日(土)～11月19日(日)の予定です。

上記の展示会をぜひご観覧いただき、はしかけ活動に活かしてもらえたらと思います。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■3月26日(日)午前 うおの会運営会議 場所:琵琶湖博物館セミナー室 参加者:8名

午後の総会のことや、今年度の定例調査の運営について話し合いました。

■3月26日(日)午後 うおの会総会 場所:琵琶湖博物館セミナー室 参加者:20名

あいにくの雨模様でしたが、博物館にて総会と一年の振り返り、来年度からの活動のための調査票の書き方講座を行いました。総会では中尾会長より、来年の調査予定、博物館学芸員からの調査依頼などの確認、役員と運営委員の承認のほか、班行動の復活についての話がありました。その後、写真で今年度の調査の振り返り。あんなことがあった、楽しかった、と口々に話していました。

続いて、運営委員の酒井さんよりコロナ前とコロナ下(禍)での、調査結果についての発表がありました。コロナ禍になってからは全員で一地点を調査するため、班行動をしていたコロナ前より地点数は少なくなりましたが、確認された種数に関してはコロナ以前と大差ないという結果でした。この結果を聞いて、大人数で一つの地点を調査する利点と、全員の「なんとかしてでも魚を捕まえる」というやる気を感じたように思いました。

最後は来年度の活動に向けて、副会長高田さんより、調査票の書き方講座でした。うおの会は調査票を書くまでが活動であり、個人でも定例調査でも誰もが記入できるように、との再確認も兼ねての講座でした。

来年度からはコロナの規制もかなり緩和され、班行動調査の復活なども考えています。しかし「みんなで一つの調査地点」の楽しさも知ってしまったので、どちらも続けていきたいというのが個人的な感想です。以前からの調査方法と新しいスタイルの調査、どちらも組み合わせるような活動が来年度もできればと思います。みなさま、来年度もよろしくお祈りします！

(報告: 竹元 冴矢)

■4月16日(日)第173回定例調査 場所:日野川

雨天のため中止しました。

【今後の予定】

5月は堅田周辺、6月は琵琶湖博物館周辺での調査を予定しています。詳細は開催案内メールにてお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

■令和5年3月31日(金) 場所:甲賀市水口町 参加者:3名

2022年度活動報告書および2023年度活動計画書の作成と提出

年間活動日数16日、活動会員数(のべ)38名、一般参加者数(のべ)576名

【主な活動内容】

NHK国際放送の番組「NINJYA TRUTH#21 忍者の聖地甲賀」でクリス・グレン氏と山田雄司(三重大教授)とともにメンバーが出演。また、日本電波ニュースによるベトナムホーチミンTVの番組にも出演し、当グループとして撮影に協力した。

修験の聖地飯道山、飯道神社、山伏の修行場、織田信長が国見をしたと伝わる岩場、廃飯道寺の石垣のある坊跡、催事に使われたと思われる石組みの残るため池なども紹介された。飯道山行者講所属の当会メンバーが山伏姿で出演、飯道山を案内し解

説した。海外の忍者ブームを受けて制作された番組で、放送後の反響も大きく、飯道山の歴史と自然を世界の人々に知ってもら
うきっかけになった。(活動報告書より抜粋)

■令和5年4月20日(木) 場所:甲賀市土山町 参加者:1名
土山町鮎河の栖碧院(せいへきいん)を再訪し甲賀准四国 42 番の札所石碑を確認した。



石碑には甲賀四国第四拾二番札所と設置者として東観音講中と刻まれている

■令和5年5月5日(金) 場所:甲賀市甲賀町 参加者:2名
甲賀市くすり学習館で登録有形民俗文化財の「甲賀売薬の製造・販売用具」企画展を見学。
甲賀の薬業は、中世に山伏が、火伏の神・愛宕神社や疫病退散の祇園社のお札とともに広めたとされ、甲賀地域の産業として発
展した。配札が禁止された明治以降は「おきぐすり」として地域に定着し、配置売薬として富山や奈良に並ぶものである。見学後、
館長との山伏と忍者に関する意見交換を行った。



■令和5年5月18日(木) 場所:甲賀市水口町 参加者:2名
甲賀衆大原氏一族の大原同苗講調査のその後
甲賀町の大鳥神社で、今も続けられている大原同苗講について調査研究されている方と再会し懇談会を実施した。伴家に始ま
る大原一族と甲賀五十三家、甲賀の山伏と飯道寺、甲賀忍者の本当の姿などについて最近の調査内容を興味深く聞いた。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■2023年 4月 23日(日) 西教寺 参加者 2名
大津市の西教寺の境内や施設内の展示を見学。
スケッチや吟行を行いました。

■2023年 5月 21日(日) 堅田 参加者 2名
堅田の町を散策。
船溜まりで鮎をながめたり、青蘆や、湖上に漕ぎ出すカヌーを興味深く拝見しました。

【活動予定】

■2023年 6月 18日(日) オープンラボ(琵琶湖博物館)
活動時間 10時30分～(15時)
博物館内でスケッチ等。
また、希望者は博物館の敷地内や湖岸で吟行も行います。

■2023年 7月 16日(日) オープンラボ(琵琶湖博物館)
活動時間 10時30分～(15時)
博物館内でスケッチ等。
また、希望者は博物館の敷地内や湖岸で吟行も行います。

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

<びわ博 de 俳句>

五月の堅田の湖岸は、釣り人や観光に訪れた人々を案外多く見かけます。
蘆は青々と茂り、湖岸の家ではざくろやみかんの花が咲いていました。

わたしたちが訪れたときに浜から湖へ漕ぎ出す一艘のカヌーと出会いました。
10人ほどを乗せたその舟は、しんがりの人が岸を蹴り上げて湖へ。
太鼓の音に合わせて櫂を使いながら沖へ漕ぎ出して行きました。

右の写真は、堅田の湖岸風景と町中で見た蛇莓です。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

- 4月 15日(土) 参加者:2名
各自の作業。糸紡ぎなど。
- 4月 26日(水) 参加者:4名
新しい方が来られたので、綿から糸紡ぎまでおさらいしました。
- 5月 10日(水) 参加者:5名

午前中、工房の田植えのお手伝い。午後、工房のカラムシを刈り、芋引きをしました。芋引刀がなかったので、竹をもらって製作。ちゃんと芋引きできました。今年はカラムシの生育が早く、すでに脇芽がでていたので繊維があまりとれませんでした。でも一応できることがわかったので、次回また採集したいと思います。

【活動予定】

■織姫の会

5月27日(土)、6月7日(水)、24日(土)、7月12日(水)、29日(土)
8月はお休みです。

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2023年4月の活動

○東近江市奥永源寺、神崎川沿いの地質調査

日時:4月2日(日) 10:00~15:00

場所:東近江市永源寺

参加者:9名

1. 神崎川沿い露頭の分布調査

産総研5万分の1地質図、「御在所山」を見ながら、担当者作成の調査マップにより、地点①から⑦を調査した。複雑な露頭岩石の境界を見つけられるように、Mさんのご指導のもとに注意深く調査した。

①露頭は、再結晶質チャートの褶曲した露頭で、泥岩が混じるものもある。②露頭は、マンガン採掘と思われる坑跡の岩石。黒色で二酸化マンガンを含むものや、ピンク色の薔薇輝石と淡灰緑色テフロ石の帯状する岩石が確認できた。③は、チャートに花崗岩が貫入する露頭。花崗岩は石英粒が大きく、熱変成で再結晶化している。④露頭の流紋岩質火砕岩は、黒っぽく、粒度が小さく、湖東地域の岩相と違って見えた。⑤は、アプライトと流紋岩質岩石。他に、アプライトとペグマタイトの接する転石も見られた。⑥露頭は、にわか雨にて省略。⑦神崎川河原石の観察。石が流れに向く、インブリケーションになっている。おもに花崗岩が多く、石英、青色泥岩、チャート、玄武岩(水冷破碎岩)などがあり、それぞれがお気に入りの岩石を採取した。

2. 感想

神崎川沿いは、三重県の鈴鹿山地よりで、滋賀県の中でも秘境に近い自然の多い地域です。春の山々に、タムシバの白い花があちこちで見られました。

今回の露頭調査では、6種類の岩石を見ることができました。元々チャート質の場所に、噴火や断層のずれも起き、複雑な地質になったのだろうと感じました。今後、風越谷の断層で地質が変る反対側も調査したいと思いました。

■今後の活動予定

5月28日(日)10:00~15:00 瀬田川鹿跳橋付近の調査

6月10日(土)10:00~14:00 比叡山坂本方面 大宮川林道から衣掛岩付近の観察



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 43名】

グループ担当職員:半田 直人

【活動報告】

■古琵琶湖発掘調査隊 総会

日時:3月19日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加人数:5名

活動内容:総会では、一年間の活動のまとめと次年度に向けての活動方針を話し合いました。2022年度中に行った各活動の内容について詳細な報告を行い、活動の中で出来たこと、得たこと、反省点、課題など、より良い活動にしていくにはどうすればよいか意見を出し合いました。

また、古琵琶湖発掘調査隊の英語名の検討についても、現在出ている案を報告し、今後、もう少し案やアイデアを募集しながら、検討を進めていく方向で話し合いました。

コロナ禍後の活動の始動に向け、和やかな雰囲気の中、予定時間を少し超過するほど活発な議論を行うことができました。

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」への参加

日時:4月22日(土)~4月30日(日) 9:00~16:00 (4月25日・26日は中止)

場所:滋賀県犬上郡多賀町四手 参加人数(のべ):33名

活動内容:本年度も多賀町四手で行われている「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」に参加しました。この活動は、私達の活動の柱の一つでもあります。今回で十回目となり、国の天然記念物に指定されている「アケボノゾウ化石多賀標本」が含まれていた地層まで到達しており、新たな発見への期待と学びを得ることができました。

今年度の発掘調査も、古琵琶湖発掘調査隊のメンバーが組分けされたグループの組長を担いました。円滑に発掘調査が進むように各組の組長同士で声を掛け合い、どのような化石が出ているかなどを随時確認しながら、丁寧な調査を心掛けました。今回の発掘調査では、骨化石・咽頭歯化石・植物化石・昆虫化石・貝化石など計360点の化石が採集されました。

発掘調査には、遠方で研究や仕事をしていて、なかなか活動に参加することができないメンバー達も駆けつけ、久しぶりの再会を喜び合いました。遠く離れていてもお互いに頑張っていることを報告し、今後の活動に向けて、たくさんのパワーをもらうことができました。

コロナ禍でしばらく実施されていなかった屋外での勉強会も、今年度は行われることになりました。このプロジェクトには、多くの研究者の方々が専門班として参加しておられます。この屋外勉強会は、日替わりで昼食後や空き時間などに、くつろいだ雰囲気の中で行われ、先生方の多彩なお話を先生方のすぐそばで聞き、質問することができる貴重な機会でもあります。古琵琶湖発掘調査隊からも2名が勉強会を担当し、自身が海外で取り組んでいる研究の「カナダロッキー山脈のバージェス動物群—とくに多毛類研究について—」についてお話したメンバーや、この発掘調査地で採集された標本のクリーニングについてお話したメンバーもいました。

多賀町発掘お助け隊の皆様とも再会し、一年ぶりの再会とは思えないほどすぐに打ち解け、暑い日や天候の悪い日もありましたが、皆で励まし合い、一致団結して化石の採集や採集地点の計測などを行いました。多賀町発掘お助け隊の隊員として参加しておられたこどもさん達が、調査の最中に次々と何度もやってきて、化石の見つけ方や特徴について熱心に質問をしてくれて、その質問は日数を重ねるごとにより深い内容になっていきました。そして少しずつ植物化石や虫化石や貝化石などを見分けることもできるようになり、この調査で吸収した知識や発掘の技術を活かして、自分達自身で考えながらたくましく急成長していく様子を、まぶしい思いで見ることができました。

大人の方々も、じっくりと発掘調査に向き合うことで、わからないことや知りたいことが芽生えてくる瞬間や、化石を見つけた時の喜びを、目を輝かせて楽しんでおられるようでした。

今回の発掘調査では、こどもさんも大人の方々も、専門班の先生方や発掘事務局の方々、私達古琵琶湖発掘調査隊も、それぞれが発掘調査団の一員であるという自覚を持ちながら、世代や立場を超えて協力し、学び合えるということを再認識することができました。最終日には皆で別れを惜しみつつ、たいへん良い雰囲気の中、無事に発掘調査を終えることができました。

古琵琶湖発掘調査隊では、今年度も、参加者の皆様と協力して取り組んだ「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」で採集された化石のクリーニングを行い、発掘調査地における約 180 万年前の古環境について、さらなる知見を積み重ねていきます。



〔多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査の様子〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング①

日時: 5月 17日(水)13:00~16:30

場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加人数: 5名

活動内容: 「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング作業に向けて、化石の確認作業を行いました。

まず、琵琶湖博物館に届いた植物化石・昆虫化石・咽頭歯化石などについて、それぞれにつけられている標本番号と標本目録を照合しました。

届いたばかりの化石は、採集地点で採集されたままの状態、泥が付いていたり、泥の中に埋もれてしまっています。この状態では何の化石なのか調べることができないため、泥を丁寧に取り除き、化石の形や模様が見えるようにしなければいけません。植物化石・昆虫化石・咽頭歯化石などは壊れやすいものが多く、クリーニングに時間がかかります。クリーニングを待つ間、化石が損なわれないように、一つずつ、一時保存されているケースを開け、必要に応じて保存用アルコールを足しました。あわせて化石の状態も確認し、どのようにクリーニングを進めていくか、作業方針についても話し合いました。



〔標本番号と標本目録を照合中〕



〔化石の状態確認はクリーニングの方針を決めるために大切です〕

■服部川での化石の観察会

日時: 5月 21日(日) 10:00~14:00

場所: 服部川(三重県伊賀市)

前々日に降った雨で川の水位が上がり、観察可能な場所が冠水していたため、残念ながら活動は中止としました。

【活動予定】

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング②

日時: 5月 23日(火)13:00~16:00

場所: 琵琶湖博物館 実習室2



(9) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:米田 一紀

【活動報告】

■ディスカバリールームは、5月14日(日)から日曜日も開室となり、時間入替制でディスカバリールーム券(整理券)を配布した上で、開館日は開室となりました。

■5月5日(金)はディスカバリールームにて「かぶをつくろう!」のイベントを行い、古新聞でかぶとを作りました。子供の日のイベントで大勢の方が楽しんでおられました。

【活動予定】

■引き続き、時間入替制・ディスカバリールーム券制での開室となっています。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。いつでもお待ちしております!

新型コロナウイルスによる規制が緩和されたため、今後はザ! ディスカバはしかけの活動再開を予定しています。活動再開の際にはぜひご参加ください。



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

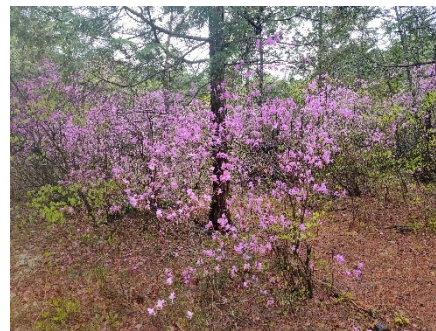
グループ担当職員:美濃部諭子

【活動報告】

■4月15日(土) 里山体験教室 下見 参加者3名

この日は、あいにくの雨でしたが野草を採りながら散策ルートの下見を行いました。今年は暖かかったので、山菜の生育が例年より1~2週間早いようでした。来週の本番はちょっと時期が遅いかなあと少し心配しつつも、どんなものが見れるか、どんなものが採れるかを確認しながら歩きました。

散策の帰り道は川沿いを歩きました。コバノミツバツツジのピンク色がとてもきれいで、これは是非、来週参加者のみなさんにも見てもらいたいなと思いました。



■4月23日(日) 里山体験教室 本番 一般参加者21名、会員7名

本番の日は、天候に恵まれとても気持ちのいい日となりました。

散策では、いろいろな野草や樹木を観察しながら歩きました。時々、葉っぱのにおいを嗅いでみたり、触ったり、かじってみたりして春の里山を存分に感じながら歩きました。参加者のみなさんも春のいろいろなにおいを楽しんでいたようでした。

午後は丸太切りと木の名札づくりを行いました。最初は慣れない手つきの子どもたちも、切っていくうちにノコギリの使い方も上達しているようでした。初めて丸太切りをする子どもも、やったことがある子どもも楽しそうに切っているのが印象的でした。丸太を切った後は、マジックでそれぞれ好きなように名前を書いて木の名札を作りました。次回からこの名札を使ってもらえると嬉しいです。夏の里山体験教室も楽しみです。



【今後の活動予定】

- 6月21日(水) 潮干狩り
- 7月1日(土) 里山体験教室 下見
- 7月9日(日) 里山体験教室 本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

山ではヤマボウシやミズキの花が咲き、カエデの仲間が種を大きくしはじめました。町では街路樹のハナミズキやサツキの花が目を引きようになってきました。

【活動報告】

■ 4月2日(日) 博物館駐車場周辺の観察 13:30~16:00 ごろ 参加者 3名

この日は、この時期に博物館の駐車場で見られるスマレの仲間を中心に見ることにした。

職員駐車場の端に車を止めさせてもらい、出発。車を停めた辺りには、スマレ、ヒメスマレ、少し行くとアリアケスマレがあり、葉の形を比べた。ヒメスマレは、葉が小さめで葉柄に近いところに鋸歯のような不揃いな切れ込みが見られ、葉だけでも区別が付くことが分かった。我が家の草取りが大変なスマレも葉の形からヒメスマレだと判明。我が家のヒメスマレは葉裏が濃い紫色をしているが、博物館駐車場の方は、葉脈部分が少し紫っぽい程度だった。スマレ(このままで種名)は花の色も濃く、よく目立つ。花も葉も他と間違えることもない。アリアケスマレは、花は真っ白であまり目立たないため、白い砂地にあると見逃してしまう。観察中も、あれっ?さっきこの辺にあったのに...、となってしまう。アリアケスマレの花には、中心に向かって紫色のすじが何本も見られ、花によってこのすじの色は淡かったり濃かったりする。結局、この日、アケボノスマレ、ノジスマレを見つけることができず、残念だった。

他には、カラスノエンドウ・スズメノエンドウ・カスマグサの花・実の付き方、シロイヌナズナ・ミチタネツケバナ・タネツケバナの葉の形の違い、トキワハゼの実を観察。その後、この日のもう一つの目的だったトウカイタンポポを捜した。数年前に見たときよりも西側にあり、駐車場西端の一部と、湖に近い窪地に広がっているのを確認。ただ、すぐ横の舗装道に出ると、そこにあるのはすべてセイヨウタンポポだったため、一部は交雑している可能性もあるだろう。この日、分からなかったのは、ムシクサ。ルーペだけでは花の形状が分かりづらいことや時期が未だ早かったこともあり、しっかり観察することができなかった。最後に博物館正面玄関横で、セキショウの花を見て終了となった。

■ 5月7日(日) 博物館周辺の観察 雨天のため実習室で持ち寄り観察 13:30~16:00 参加者 2名

この日は、朝から雨のため、実習室で顕微鏡を使って持ち寄ったものを観察。

初めに、以前メールで「おたずね」としてメンバーに画像を見てもらった樹(花びらが散った後の残り部分から見るとマンサクの仲間らしい)の樹皮に星状毛があるかを見た。星状毛があれば確実にマンサクの仲間だということ。200倍で見ると、銀色の膜・鱗のようになっており、星状毛かどうかは不明。そこで新芽部分を開いて見たが、産毛状のものが絡まっているようにしか見えず、失敗。結局、葉が展開したものを採って来なければ星状毛は見られないのかもしれない。

次に、キンポウゲ科のヒメウズの花を分解。「うず」は「烏頭」と書き、有毒じゃないの?とメンバーに言われ、驚いた。我が家の庭で増えすぎていつも素手で抜いていたからだ。以前分解したトリカブトも複雑な花の構造だったが、この



小さな花もがく片、花卉、距のつくりが不思議だった。特に距の部分小さく、1枚の花弁それぞれの間に突き出ているのが見えたときには、2人で歓声をあげた。ヒメウズは、自然環境が良い林道などに見られるが、我が家では3月～5月末ごろまで咲き続け、せっせと種子を飛ばしている。

その後、タチイヌノフグリの花(枯れていて確認できず)・実・種子、フウの雄花(200倍で見たら押し麦が重なっているようだった)、ヒメスミレの閉鎖花?(上へ上がってきた時点ですでに結実しているのか)、博物館入り口に生えていたスゲ(アゼナルコ)などに苦戦し、時間切れでこの日は終了した。



【今後の活動】

■ 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。

■ 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。

■ 6月4日(日) 水口子どもの森「ササユリなどの観察」小雨決行、ひどくなったらその場で中止 10:00～12:30 ごろ

■ 7月以降は未定、※8月、2月の活動は、例年お休みしています

※新型コロナウイルスの感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

4月1日の13時30分から、琵琶湖博物館研究交流室で、第73回たんさいぼうの会総会を開催しました。実に久しぶりの、対面での開催です。対面参加5名に加えて、オンラインで2名、計7名の参加がありました。このところ集まっていた活動はできていないのですが、会員の皆さんの自宅や博物館での個人活動の成果を聞くことができました。また、安曇川のみずワタクチビルケイソウ調査を5月に、福井県立年縞博物館の見学を10月に、それぞれ実行することを決めました。また毎年恒例の花見が、総会終了後に旧草津川河川敷で行われ、3名が参加しました。なお、当日欠席だった津田会長が総会当番の石井さんに託したメッセージを、以下に転載します。

「今日は、総会・お花見を調整いただいたにも関わらず、会長として出席できず、申し訳ございませんでした。皆様、体も心も、お元気にされていますでしょうか。新型コロナウイルス感染症対策については、株の変異に合わせて社会の対応も変わろうとしています。人の価値観はそれぞれであり、まだコロナ禍前のように、たんさいぼうの会全員が集まって活動することに合意形成を得るのは難しい部分があると思います。ですが、珪藻を観察するのは面白い、新しい同定方法を確立したい、子どもから年配の方まで、みんなで楽しく“たんさいのぼう”に親しめる企画をしたい、といった、一人ひとりのワクワクする気持ちは、コロナ禍であろうと、他国で戦争や大規模な地震があらうと、止められないと思います。どうか皆さん、自分自身の素直な気持ちを大切に、他人に迷惑をかけない範囲で、自分らしいアプローチの仕方、会の活動を楽しんでください。今日の総会で楽しく有意義な話し合いがされることを願っております。」

日本珪藻学会第44回大会が5月13・14日に文教大学東京あだちキャンパスで行われ、たんさいぼうの会からも影の会長を含めて4名が参加しました。そして、富小由紀さんが、たんさいぼうの会会員名義で以下の発表をしました。

富小由紀・堂満華子・大塚泰介・林竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト(2023年5月14日)滋賀県犬上郡多賀町四手産の珪藻化石に基づく古環境、日本珪藻学会第44回大会、文教大学東京あだちキャンパス(東京都足立区)、[口頭発表]

個人活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。会の活動としては安曇川(大津市・高島市)、曾根沼・野田沼(彦根市)、瀬田公園(大津市)、黒沢湿原(徳島県三好市)などの珪藻について顕微鏡写真を整理し、同定と研究論文執筆を進めています。また、個人活動として堅田内湖のヨシ茎上の珪藻や、犬上川などから出現した外来種珪藻などの研究も進んでいます。前者の研究では4月13日の調査で、琵琶湖でも冬期に優占する直径3μmほどの円盤形珪藻が、ヨシに大量に付着していることを明らかにしました。後者の研究では報告論文を投稿して査読結果が戻ってきており、現在、査読結果に対応した修正をしているところです。

【活動予定】

たんさいぼうの小さな旅「安曇川のみずワタクチビルケイソウ調査」を5月27日(土)に行います。次のニュースレターで報告します。

COVID19の感染状況は再び悪化してきましたが、様子を見ながら対面での活動を再開していきます。上記「たんさいぼうの小さな旅」の他、珪藻植生報告で顕微鏡写真を一定のスペース内に効率よく配置する「珪藻の詰め込み教育」を計画しています。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(13) たんぽこの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

博物館屋上に置かせていただいているミニたんぽこによるカブトエビ類の飼育実験も2年目にはいります。昨年度は、コンテナからの落水方法に苦労したり、乾燥すぎて土が岩のように固まって途方に暮れたり、本来の実験にはほど遠いところで試行錯誤の連続でしたが、今年度は何とかして周年飼育の見通しを立てたいところです。

【活動報告】

・広域調査下見

2023年4月2日、4日、24日に、本年度広域調査を予定している東近江市五個荘地域について、また、4月9日、14日、18日、22日に東近江市の旧八日市市西部地域について、それぞれ、稲作準備の状況を確認する下見を行い、調査筆を決定しました。

・ミニたんぽこによるカブトエビ類の飼育実験 琵琶湖博物館屋上

2023年4月7日と29日に、いずれも50mm前後のまとまった雨が降ったので、翌4月8日と30日に、固まっていたミニたんぽこの土をほぐして空気にあてる作業を行いました。秋から冬にかけての乾燥でカチカチに固まっていた土も、底まで柔らかくほぐれました。

5月3日に水入れと代掻きを行い、5月7日の準備会での田植に備えたのですが、同日夜の大雨の予報をうけ田植は延期し、田面水の溢水を防止するためにアクリル板屋根を設置しました。5月10日に生活実験工房の田植で余った「みずかがみ」の苗をもらい受け、田植を行いました。エビ類が出現してくれるか、観察を続ける予定です。なお、一方のミニたんぽこに排水口からの漏水が認められたため、5月13日に補修作業を行っています。

・準備会(琵琶湖博物館実習室1)

2023年5月7日に、採集瓶へのアルコールの封入、ラベル貼付などの調査準備作業と、日程、集合場所の確認を行いました。

・ヒメカイエビの分布調査

多くのたんぽこで田植えが行われた大型連休から10日前後が経過したため、2023年5月12日に大津市の志賀学区と唐崎学区内の水田でヒメカイエビの生息調査を行いました。宅地開発が進んでたんぽこはかなり減っていましたが、京阪石山坂本線とJR湖西線にはさまれた地域にある8筆の水田でヒメカイエビの生息が確認されました。アメリカカブトエビが見つかった水田も2筆ありました。

【活動予定】

今年のグループ全体での調査日程は以下の通りです。

・旧八日市市西部調査 A班:5/20(土)、B班、C班:5/21(日)

・五個荘地域広域調査 5/27(土)

・石山寺・赤尾町カブトエビ類調査 6/4(日)

なお、5/21 C班では、滋賀県立大学生生き物研究会学生の見学を受入れます。

(山川 栄樹)



(14) たんぽこ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<グループの活動について>

「たんぽこ調査はしかけ」は、「たんぽこ調査・西日本」というたんぽこの参加型広域調査に協力しながらたんぽこについて学ぶことを目的にしているグループです。

次回の広域たんぽこ調査は、これまでのサイクルのままですと、今年度末の2024年3月から予備調査が始まる予定です。現時点ではまだ不明ですが、実施されるのなら併せて活動を行う予定です。

<「タンポポ調査・西日本2020」の報告書はまだ届きません（2023年5月現在）・・・>

2020年調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が制限されたので、2021年春まで調査が延長されました。滋賀県でも、2019年3月～2021年5月分の3年分のデータを事務局に提出しました。事務局に問い合わせたところ、まだ完成していないそうで報告書が届く予定は不明とのことでした。入手したら、ご協力いただいた方々に連絡します。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

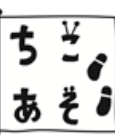
次回（2025年）の広域調査に関して、まだどうなるか事務局の判断が出ていません。何か方針が決まりましたら、この場で報告いたします。



トピック：帯化タンポポ（左の写真）

琵琶湖博物館の通用口外側、石畳道路の隅っこの株に、帯化タンポポを見つけました（4月14日）。帯化タンポポとは、茎が複数本くっついてしまった奇形のタンポポです。同じ株の別の花と比較すると、茎が太く花も楕円形の形をして大きくなっているのが分かります。タンポポを調べていると、時折こんな花にも出会います。

（文責：芦谷）



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員：中村久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆4月の活動 4/(水) 8組(幼児11名、大人11名)

雨が少し残りましたが、活動時にはもうあがり、新しい年度のちこあそが始まりました。春と言えば、タケノコ掘りです。生活実験工房裏には孟宗竹が生えています。放っておくと、ドンドン増えて竹で覆われてしまいます。管理がてら、みんなでタケノコ掘りへ出かけました。地面から少しだけ出ているタケノコの先を探して歩くと、あちらこちらで見つかります。見つかったあとが大変、スコップで周囲を掘り、根本へスコップの先を入れてグイッと起こすまで、子どもも大人も必死です。ですが、親子でタケノコを掘れて大満足です。お昼にはバンダナおじさんが、あく抜きをしたタケノコを調理して、みんなで味見。上手なあく抜き方法もお母さん方が教わって、掘ったタケノコはお家で美味しく料理してね。

暖かくなってきたので、お野菜いろいろ植えました。ジャガイモの男爵とメークイーン、カボチャ、サトイモを植え付けました。夏を過ぎるころ、収穫して食べましょう。お楽しみに。

◆5月の活動 5/17(水) 11組(幼児15名、大人12名)

五月晴れの元、たくさんの親子が集いました。田植え後の田んぼには、ヌマガエルの鳴き声、シマゲンゴロウが泳ぎ、シオカラトンボとアオスジアゲハが飛んでいます。子どもたちは、水の中の生き物に興味津々、はしかけメンバーがカエルを捕まえると、恐る恐る触ってみたり、観察ケースでじっくり見たり、カエルと一緒にぴよんぴよん跳ねてみたり、初めて見る生き物たちと遊びました。

畑では、サツマイモの苗を植えました。紅はるか、安納芋、鳴門金時を植えて、お水をあげて、「大きくなってね～」と気持ちを込めました。秋には収穫して、寒くなったら、焼き芋をみんなでしましょう。その前に、芋づるを使ってのお料理も楽しみです。

とても暑い日でした。ということは、水遊び！ガチャコンポンプやホース、バケツ、じょうろ、たらいを使って、キャツキャツと声をあげて水を楽しみました。足だけ浸かっていたのに、いつの間にか全身ずぶぬれ。「着替えあるから濡れても大丈夫だよ」お母さんの声で、さらに水を楽しみました。

◆はしかけメンバーが増えました！

はしかけ講座を受講され、今回からはしかけとしてお母さんと1歳のお子さんが親子でご参加くださいました。パチパチパチ！



4月こんなに大きなタケノコ！

4月うんとこしょ、どっこいしょ

5月カエルを触ってみよう

5月田んぼの生き物探そう

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
6月	6月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ6月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) コロナ禍の実施についてはその都度判断します。
7月	7月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ7月	ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■4月28日(土) 参加者:9名、見学者2名、学芸員2名

烏丸半島の船着き場と瀬田川のプランクトンを観察しました。今回は近年になって琵琶湖で観察されるようになったプランクトンがいくつか見られました。

今回はその中の一つ、*Teuthophrys trisulca* が特に注目を浴びていました。3つの突起を持つ球形の繊毛虫で共生藻を持つため緑色をしています。サンプル中に多く含まれていましたが、同じく多かったフクロワムシに食べられてしまっている様でした。



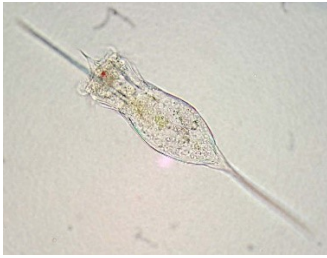
採集の様子



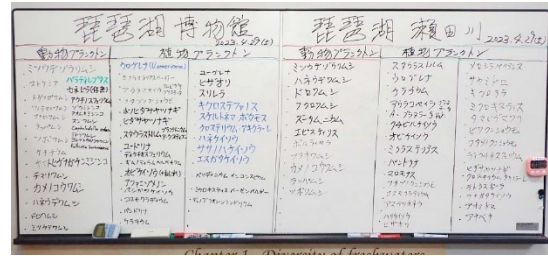
大画面でプランクトンの観察
フクロワムシが多いです



Teuthophrys trisulca を撮影中



Kellicotia bostoniensis



今回観察したプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員: 安達克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

5月13日(土) 春の草花でしおりをつくろう

わくわく探検隊の春は、定番のしおりづくりです。屋外展示で草花を採集し、実習室で押し花にしてラミネートでしおりを作るプログラムです。今回は、水草を研究されている芦谷学芸員に陸に上がって頂き、博士として参加して頂きました。数日前から雨予報で心配しましたが、採集時間中は降らず屋外展示で採集した植物のお話をしながら歩くことができました。タンポポやハルジオン、ユウゲショウ、ニワゼキショウ、ムラサキサギゴケ…さまざまな植物を採集しました。制作の時間は、採集した草花を丁寧に押し花キットに挟み、レンジで温めます。植物の水分や厚みなどで温める時間を調整するのが成功のカギです。長年プログラムを実施してきた経験が役に立ちました。押し花が出来たら専用の紙で草花を配置し、色鉛筆で植物の名前を書いたり飾り付けたりして自分だけのしおりにしてラミネートで完成です。ハルジオンの厚みある花を花火のように押し花にしたしおり、葉っぱだけのジャングルしおりなど素敵な作品ができました。この体験を通して、身の回りの環境に同じ草花に気づいたりその他の種類に出会ったり、植物の世界が広がってくると嬉しいです。





【活動報告】

■4月9日(日) 参加者: 4名

ニホンザルの解剖、シロハラの仮剥製の制作を行いました。
標本制作途中にはよく標本の写真を取ったり、スケッチを行ったりします。
その理由は様々ですが、記録に残しておいて後々の参考にするためであったり、自分自身が気になっている所を詳しく観察するための手段としてスケッチを行ったりもします。

研究者というわけではないので、本格的な事が分かるわけではありませんが、その時その時の自分自身の疑問であるとか、発見のようなものがスケッチを行うと不思議と出てきます。そのため、時間がある時などには出来るだけスケッチを行いたいと思うのですが、一旦作業を始めてしまうと、作業を進めることに集中してしまいます。そして、いつのまにか時間が無くなってしまっている事がよくあります。



▲ニホンザルの解剖途中のスケッチ

■4月22日(土) 参加者: 2名

ニホンザルの解剖、チョウザメの徐肉などを行いました。

■5月14日(日) 参加者: 5名

ニホンザルの解剖、テンの解剖、シロハラの仮剥製の制作を行いました。
シロハラの仮剥製の制作に取り組んでおられたメンバーの方は、今回が二個体目のシロハラの仮剥製作りです。初めて製作した前回の仮剥製の出来に納得がいかなかったため、続けて二個体目の制作に、前回覚えた作業手順を確認しながら、注意深く作業を進めておられました。



▲制作したシロハラの仮剥製

【活動予定】

・6月、7月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。

また、7月8日にはしかけ「びわたん」との共催による「わくわく探検隊」のプログラムを、行わせていただく予定になっております。



【活動報告】

■4月30日(日) 参加者: 15名

活動内容:山菜摘み体験(甲賀市鳥居野)

今年度最初の緑のくすり箱は、毎年定番になっている館外活動を実施しました。今年は甲賀市鳥居野のメンバーの主催している里山実験室にお邪魔して、山菜摘み体験をさせていただきました。その日はあいにく午前中雨だったので、ゆっくりと野草茶を頂きながら、山菜の知識や調理の方法を教えて頂いて、午後から野外に出かけて山菜を探しながら説明して頂きました。ヨモギの天ぷらや、タケノコとフジの花のペペロンチーノ、ハルジオンの菜飯など。身近な山菜を使った料理は、どれも手軽で自分でもできそうなものでした。最後に一番おいしかった料理を聞いてみたところ、ハルジオンの菜飯が人気でした。

里山散策では、あちこち食べられる薬草があり宝の山のような様子でした。毒のある植物についても教えて頂き、熱心なメンバーは写真を撮りながら、しっかりとメモをとっていました。とても楽しく勉強できた一日でした。



【参加者の感想】

- ・今日はありがとうございました。野草の名前や効能を知ると身近な野草がまったく違って見えてきます。
- ・藤とハルジオンの花が食べられることに衝撃を受けました。少しずつですが野草の名前を覚えていきたいと思います。
- ・たくさんの味の発見がありました。ハルジオンとヒメジョオンの違い、やっと覚えられそうです。ミツバと藤の花は胡麻和えにして美味しくいただきました。植物のパワーをもらって明日は元気に過ごせそうです。
- ・ハルジオンはお辞儀をされていて、ヒメジョオンはお辞儀をしていない、なんて面白かったです。野草、薬草色々知りたくなりました。ふじの天ぷら、最高。
- ・身近に山菜を感じることができました。採ってきたものを家で和え物や天ぷらにしました。新鮮で美味しかったです。
- ・里山を歩きながら野草が生き生きと育っていることを実感しました。素敵な時間を皆様と共有出来て充実した一日でした。
- ・本当に自然の野山は宝の山ですね。今日見たり食べたりした草花を本でチェックすると写真の中の草花が身近に感じられます。コツコツと覚えていきたいと思います。
- ・素敵なアトリエで皆さんと楽しく自然の恵みを美味しくいただくことができました。

■5月13日(土) 参加者:6名

活動内容:お茶摘み体験(甲賀市鳥居野)

前回に引き続き甲賀市鳥居野の里山実験室でお茶摘み体験をさせていただきました。滋賀県は日本最古の茶所と言われ、中でも甲賀市が一番の産地です。アトリエの横にあるお茶の木から新芽を採って、お茶を作る工程を教えてくださいました。

やわらかい新芽が沢山出ていて、参加したメンバーは夢中で茶摘みをしていました。大きい葉っぱがついた枝は、チンキ用に採りました。摘んだものをほうろく鍋に乗せて、蒸していき、もんでからまた炒って、お茶が出来た時はとても嬉しかったです。

とても上品な味で一煎目も二煎目も美味しかったです。普段何気なく飲んでいるお茶ですが、学ぶと感謝の気持ちが沸いてきました。八重桜のシロップを冷茶で割ったドリンクなども頂き、お茶について深く学ぶことができました。



【参加者の感想】

- ・家に帰って作ったお茶を飲みましたが、とても上品な味で美味しいです。
- ・お茶摘み体験や茶葉が乾燥していくなかで香りの変化が楽しめました。出来上がったお茶で癒されました。
- ・お家の茶畑での摘み茶、楽しかったです。久しぶりにウキウキしながら摘みました。茶葉づくりもこんな短時間でできるなんて…素敵な時間をありがとうございました。
- ・お茶摘みをしてほうろく鍋で釜炒りしている間に香りが濃くなりとても癒やされました。お家でお茶摘みをしてすぐにお茶をつくることのできるなんて素晴らしいです。お茶の木育てたいです。

■5月16日(火) 参加者:7名(午前中のみ一般参加者あり:大人5名 子供2名)

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)

今年度も琵琶湖博物館イベントの「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」の会に緑のくすり箱が一緒に参加させていただくことになりました。今年度は春と秋、年2回です。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はヨモギの蒸留を行いました。ヨモギは大人のディスカバリーから入った中庭で採取しました。やわらかい新芽が出ていて、草餅などにしたらおいしそうだろうなと思いました。精油もうっすら浮いていて、アロマテラピーで使う精油がどれだけ貴重なものかを説明することが出来ました。



活動内容:和ハーブのチンキ作り(生活実験工房)

午前中の活動で採取した余ったヨモギを使って、チンキを漬けました。アルコール度数が35度~40度ぐらいのお酒にハーブを漬けると、ハーブの水溶性成分と脂溶性成分が採られるといえます。いつもはホワイトリカーで漬けますが、今回は35度の米焼酎をメンバーが買ってきてくれたので、それを使用しました。数年前にメンバーが漬けた、ドクダミやローズマリー、ヨモギ、スギナなどのチンキもあったので、薄めて化粧水を作っているメンバーもいました。

蒸留した後のヨモギや余ったヨモギを使って手浴も楽しみました。手がツルツル、スベスベになりました。



【参加者の感想】

・いいお天気の中、植物の説明を聞きながら歩くのは、とても気持ち良かったです。手浴やチンキ作り、ヨモギの香りに包まれた1日でした。チンキをどのように使おうか楽しみです。

・ヨモギの蒸留、手浴、チンキ作りのフルコース、癒されました。ヨモギを隙間なく詰めた濃厚なチンキ、出来上がりが楽しみです。

【活動予定】

・6月10日(土)、11日(日) 10:00~15:00 和のハーブを使ったワークショップ(守山市)

・6月25日(日) 時間は後日連絡 手づくり蒸留器(実習室2)



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■4月8日(土)10時00分~15時 参加者:11名 場所:長浜市余呉町、長浜市姉川河口

当日はあいにくの雨のため、もともとの目的でしたギフチョウ探しは諦めて、オサムシ探しに変更しました。最初は長浜市余呉町で探していましたが、雨がひどくなったため姉川河口に移動しました。



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■3月25日(土)10:00~12:30頃 参加者:(会員)5名

内容: 栗東自然観察の森で植物観察を行った。花が終わったコブシ、セツブンソウ、アオイスミレとそろそろ見納めのヒサカキ、ハナノキ、バイカオウレン、ザゼンソウ、咲き始めのコバノミツバツツジ、アオキ、セントウソウ、オオシマザクラ、ニリンソウ、オドリコソウ、カテンソウ、イワウチワ、見ごろの花はヤマブキ、ショウジョウバカマ、タチツボスミレ、カタクリ、シュンラン、ヤマアイ、アミガサユリ、ミヤコアオイ、ユキワリイチゲ、ハルトラノオ、キクザキイチゲ、ミヤマカタバミ、シキミ、サンショウソウ、シロバナタンポポなどが観察できた。アミガサタケが生えカタツムリやオタマジャクシもいていよいよ春を実感した。(太字は写真あり)



ミヤコアオイ



アミガサユリ



イワウチワ



ハルトラノオ



サンショウソウ



カタクリ

■4月8日(土)10:00~12:30頃 参加者:(会員)3名 博物館職員)林

内容: 近江富士花緑公園で植物観察会を実施した。春はいろいろな植物の状態がどんどん変わっていく時期なので昨年より2週間早い時期に実施してみた。ソメイヨシノの花が終わった園内はケヤキなどの新緑の中にヤエザクラ類、コバノミツバツツジ、シャクナゲ、ハナズオウ、リキュウバイ、チューリップなどが咲き誇り、春本番という雰囲気であった。また今回はブルーベリー、ウグイスカグラ、ミズメ、常緑モクレンの花も見ることができたが**ブナ**は新葉が出はじめた状態で花が確認できなかった。一方でハルニレは花が既に終わり若い実と展開し始めた芽が見られた。時期を少しずらすことで新しい発見があり面白かった。(太字は写真あり)



シャクナゲ

コバノミツバツツジ



ウグイスカグラ



ミズメ



■4月22日(土)10:00~15:30頃 参加者:(会員)3名 博物館職員)林

内容:鳴谷池、鏡山で観察会を行った。青空と新緑の下、赤紫のコバノミツバツツジ、真っ白なマルバアオダモ、湿地に咲く青色のハルリンドウの花が印象的であった。湿地ではヘビノボラスの花、山頂付近ではシイノキ及びアカガシの大木や満開のクロバイを見ることができた。山頂付近の登りは少々きつかったが展望台で涼みながら雪野山方面の眺望を楽しんだ。帰り道ではミヤマガマズミ及びフジも満開であった。(太字は写真あり)



■5月13日(土)10:00~12:00頃 参加者:(会員)3名

内容:北比良山麓の植物観察を比良トピアの周辺で実施した。残念ながらオオウラジロの花は終わっていたが丁度エゴノキ、アオハダの花が咲き始めていた。アカシデ、クマシデ、ウリハダカエデ、シロモジ、クロモジの種子を観て、ウラジロノキの葉裏の白さを感じてオオウラジロの少し膨らんだ果実も観ることが出来た。路ではマイマイカブリの死骸を昆虫好きなTさんが発見、住宅街の土手ではヒメハギが生えているのを見つけた。今回の観察会の下調べでキケマンと思っていたものがフウロケマンと解り図鑑で確かめる事が大事だと改めて思った。その後ひとしきり植物談義で盛り上がり、雨が降り出したので解散となった。(太字は写真あり)





ウラジロノキ



ヒメハギ



フウロケマン

【今後の予定】

◎5月27日(土)10:00~15:00頃 集合場所:道の駅こんぜの里りっとうの駐車場

内容:金勝寺・龍王山方面の植物観察(雨天中止)

◎6月は検討中



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員:安達 克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

新たな活動はありませんでした。

【活動予定】

3年あまりにもわたるコロナ禍で活動が停滞し、2019年以前に入会した会員はほとんど卒業してしまったので、もはや現役中高生の会員は時々研究相談に来る数名しか残っていません。再びの決起に向けて、仲間を集めていこうと思っておりますが、4月末のはしかけ登録講座では、新会員は集まりませんでした。

中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方ははしかけ代表アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】

■ 今後の活動方針について協議を進めようとしているところですが、今のところ特に進展はありません。

【活動予定】

■ 未定



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和5年3月16日(木) 9:30-12:00 晴 参加者 6名

1 活動先: 近江八幡市 江頭町、小田町

2 調査目的:

江頭町・小田町一帯は元々は琵琶湖の内湖が広がっていた地域であり、水路を經由して琵琶湖から江頭港までつながっていたという。まだ昔の面影を残す朝鮮人街道と並行して走る浦街道付近を歩いて、街並み・神社・湧水周辺の調査を行った。小田町の水田のあぜ道に湧き出す湧水一か所は既に調査済みで今回は除いた。

3 調査箇所:

- ① 小田町水解(ひどき)神社の龍神池。
日野川の堤防脇に位置する神社で森の中に水溜りがある。訪問時は渇水期のためか、ほぼ涸れて干上がっていた。この神社の杉やヒノキの森は比較的若木が多く巨木がほとんど見られない。繰り返された水害等で巨木に育たなかったかもしれない。
- ② 小田町メダカの池。
水解神社のすぐ裏手の畔道沿いにあり、近くの小学校校庭内でポンプアップして水車を回している。その水を配管に通じ引き込んで池を形成している。田植えの後、田んぼの水位が上がれば池の水位も上がり、池の面積も広がってきそうである。
- ③ 小田町 小田神社前の街中湧水。
交差点から数十m入った街中道路沿いにポンプアップして流出している湧水がある。今は新興住宅が建つ小さな交差点であるが、元々は耕作地であったようである。電柱にポンプ専用の電力メーターが付設されており、当日はポンプは停止状態であるにもかかわらず相当量の水量が自噴していた。水源の後ろに「中筋橋」の小さな石碑があった。
- ④ 小田町 北里魚類養殖漁業生産組合跡地の地下水の残り水。
組合跡地は現在、埋め立てられて分譲住宅地に変貌。残された水路の中に近くの湧水地点から流れ込んでいると思われる水が道路の橋下のパイプロから相当量が流出していた。
- ⑤ 江頭町 寄明(きみょう)神社 竜神の水。
訪問時は低水位で、ほとんど溜池状態であった。



■ 水解神社の龍神池



■ 小田町メダカ池



■ 小田神社前の街中湧水

4 調査要旨

- ・この地域から琵琶湖を望むと付近が元内湖であったと思われる高低差のない耕作地が広がっていることがわかる。
- ・僅かに高い場所に集落が存在し、内湖から水路が縦横無尽に張り巡らされ、水運、陸運にも便利であったこと、内湖からの豊かな恵みとしての魚介類も多くとれていたことも推測される。
- ・寄明神社の往時の燈籠の明かりは、内湖から江頭港への航路の方位を知らしめるもとであったことにも頷ける。燈籠の明かりを目指し、暗い中、到着した時の安堵の気持ちは、如何ばかりのものであったであろう。
- ・当然、稲作等で必要であった水に関しても各神社に雨乞いのための龍神が祀られていることより、日照り対策には苦勞されていたことが伺える。また、大雨、洪水の被害も多くあったであろう。水飢饉と洪水、自然との闘いの歴史に立ち向かってきた先人たちの想いの結晶である。
- ・現在でもそのなごりか、街中湧水を大事にしている文化は、次世代にも継承されていくのであろう。

■ 令和5年4月13日(木) 9:30-12:00 晴 参加者 7名

1 活動先: 東近江市 乙女浜町

2 調査目的:

滋賀県では、地域の助け合いのもと、災害時における水を確保する手段の一つとして活用できる「非常災害用井戸認定制度」の普及を促進するため、市町が認定制度を導入するにあたり、必要とされる登録要件等について取りまとめた「非常災害用井戸認定制度導入ガイドライン」を平成25年1月に策定されていることは周知の事実であるが、東近江市、旧能登川町地域には、緊急時に誰でも使用可能な非常災害用井戸あり、市役所防災課に登録されている。県下でも稀有な事例といえる。既に東近江市山路町11か所は調査済みであるが、今回は東近江市乙女浜町の集落内にあり、非常災害用井戸として登録済みの8か所と、当日現地訪問時に確認できた1か所についての実態調査を行った。

3 調査箇所(乙女浜町)と内容

この地域には8か所の非常災害用井戸が登録されており、道路脇や敷地内に東近江市が準備した「非常災害用井戸」の黄色の看板で誰もが使えるように示されている。この辺りを流れる伏流水であり、ポンプアップ設備が付設されているが、基本的には昔から自噴する湧水である。計8か所の水質は全て近似して水温は15~18℃ pHはほぼ中性で6.7~7.4 EC 120~200、TDS 60~100 前後の軟水で場所によって金気が少し多く排水路が黄褐色に汚れる水もある。全て深度が浅い同

水系の伏流水と考えられ、局地的に鉄分が多くある地点では金気の湧出成分が含まれていると考えられる。8か所の登録されている非常災害用井戸だけでなく集落の道筋に多くの湧水湧出井戸が確認できた。井戸は大半が水道栓方式で地上に顔を出しており、開栓すると流出するようになっているケースが多く見られた。幹線道路以外は過去、水路であった部分も埋められており、集落内の道路は全体に狭い。



■非常災害用登録井戸例①



■同ポンプ設備



■非常災害用井戸設置看板



■非常災害用登録例井戸②



■非常災害用井戸例③



■非常災害用井戸例④

近隣の各家庭でも、「非常災害用井戸」として登録していないが、家を建て替える際に、井戸を残してそのまま、使用しているケースも多いというお話を聞いた。飲用水としてではなく、植木、草花の水やり、洗車などに使用しているとのこと。未登録ではあるが、非常災害時には有効手段となる。

4 調査要旨

- ・災害発生時には、電気供給がストップ(停電時)することが考えられ、電動ポンプでの汲み上げ方式では役に立ちません。災害発生時の防災井戸とは、電力供給が止まった場合、手押しポンプ併設出来るもの。ハイテクとローテクのハイブリットといえるところか。
- ・当然、自噴する力をもっている自噴水湧水も重要である。災害時には、生活用水も含め、防火用水への備えを含め「水」というキーワードは、重要であることを再認識した次第である。「憂いなければ備えなし」
- ・先人達から学んできた自然への畏怖、何かおこれば「縁者より近所の他人」お隣さんとの助け合い、ご近所が力を合わせたの頑張り精神は今でも根付いている、根付かせていかなければならないことである。

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■2023年3月17日(金) 9時30分~11時30分

天気:曇り 気温:4℃ 参加者:5名 今日の琵琶湖:水位-12cm

観察状況

- * 三寒四温の寒の日。北風が冷たい。琵琶湖に白波が立っている。体感温度も低く寒い寒いと言いつつ波の音を聞きながらの作業日。

活動内容

- * ミーティング (18日のプレゼンに向けて)
- * 保護区内除草 (ハコベ・スズメノカタビラ・チチコグサ・カタバミ・スゲ・ツルニチニチソウ等)
- * 養生(松の枯れ葉でハマエンドウの新芽の保護) * 踏みそうな所や新芽に目印として割り箸を立てた。

海浜植物

- ハマエンドウ** : 前回3月7日には冬枯していて緑が目立たなかったが、暖かな日が続いたからだろうか。新葉が広がり茎も伸びてきて葉も大きくなり緑が広がってきた。
- ハマゴウ** : 全体的に枯れて細い枝が目立つ。前回と変化なし。
- ハマヒルガオ** : 保護区の中に小さな新葉ができてきた。しかし、浜には見当たらない。公衆便所の前浜の岩には多数新葉が見られた。



ハマエンドウ(新芽が広がってきた)



ハマヒルガオ



咲き始めたツルニチニチソウ

■2023年3月27日(月) 9時10分~11時20分

天候:晴れ 気温:11℃ 参加者:3名 今日の琵琶湖:水位:-3cm

観察状況 今日のパイロ湖は肌寒い強風が吹き、水位の高い湖面に白波が立っている。

活動内容

- 1)ノカンゾウの除去 : 保護区域内のノカンゾウは撤去が完了。
- 2)保護区域内のハマエンドウの発芽状況調査 :
発芽状況は全般に良好と判断しました。
3月7日の調査場所(箸を刺した場所)で、新芽が伸びている事を確認しました。
従来、通路になっていた(クルミの木が生えている)ロープ際の場所で、通行を控えると発芽(新芽)しているのを確認しました。
- 3)レンゲ草の設置【1鉢】(昆虫がハマエンドウを訪れるように)



海浜植物

- ハマエンドウ** : 新芽を含めて保護区域内で順調に育っています。
但し、風当りの強い浜側の一部砂地は松葉(落ち葉)を撒いても強風で飛ばされてしまう。
- ハマゴウ** : 葉っぱも落ちて「まだ冬枯れ」状態です
- ハマヒルガオ** : 順調に生育しています。



ハマエンドウの新芽(ムスカリの下)



ハマエンドウ(全景)



ハマエンドウとヨモギが同所的に生育

連絡事項 :

- * 保護区域内では地下茎が伸びて「新芽」が全体に生育していますので、通行の際は踏まないように細心の注意を払って下さい。
- * 保護区域内での作業以外はロープの外側を通行願います。理由としては ①新芽を踏まない ②受粉の為の役立ち虫類を保護する。

■2023年4月4日(火) 9時30分~11時30分

天候:晴れ 気温:17℃ 参加者:5名 琵琶湖の水位:-4cm

観察状況 *春爛漫の暖かな日差しが心地よい。対岸の山々は春かすみか?見えない。

*暖かな日差しを背中に受けてのんびりと草取りに精を出した作業日。

活動内容 *ミーティング(18日のプレゼン結果) *保護区内除草(特にツルニチニチソウ等)

*浜の除草(特にコマツヨイグサ・スイバ等) *太陽の当たる中央あたりのハマエンドウを松の枝で保護した。

*レンゲを植えたプランターを1個追加した。(2.3日中に2個追加予定)

海浜植物

- ハマエンドウ : 暖かな日が続いたからだろうか、緑が濃くなり葉も広がっている。特に、松の木の下あたりは一面に広がり緑が濃くなってきた。太陽が当たる中央あたりもあちこちに新芽が広がってきた。
- ハマゴウ : 前回と変わらず枯れて細い枝が目立つが枝の節目に新芽が出ようとしている。
- ハマヒルガオ : 保護区や浜にも新葉が広がってきた。



ハマエンドウ

(緑が濃くなり大きくなってきた)



ハマヒルガオ

■2023年4月11日(火) 9時30分~12時30分

天候:晴れ 気温:16°C 参加者:2名 琵琶湖の水位:+3cm

- * 前日(4/10)、地元の宇野さんより「設置している2個のプランターのレンゲソウが萎れている。ハマエンドウの花が咲き始めた。」と連絡あり、確認に行った。

活動内容

- * プランターのレンゲソウに水やり。 * 萎れたレンゲソウの地植え(移植)。
- * ツルニチニチソウの刈り取り。

海浜植物

ハマエンドウ:花が4株咲き始めていた。松林の中のハマエンドウが元気いっぱい育って広がっている。



ハマエンドウが咲き始めた



レンゲソウの花



ツルニチニチソウの刈取り

■2023年4月21日(金) 9時30分~11時30分

天候:晴れ 気温:19°C 参加者:7名 琵琶湖の水位:+3cm

観察状況

- * 黄砂か。対岸の山々は見えない。波は静かだが水は少し濁っている。
- * 暖かな日差しと時折吹く冷たい風を感じた作業日。
- * レンゲの花にハチ(3匹)やカナブン(3匹)が来て蜜を吸っている。近くに羽の音が聞こえる。
- * ネナシカズラは見当たらない。

活動内容

- * 2023年度総会、(2022年度事業実績・会計報告、2023年度事業計画・会計予算)、情報共有
- * 保護区内除草(ツルニチニチソウの根の掘り起こし・コマツヨイグサ・スイバ・チガヤ等)
- * レンゲの地植え

- * ゴミ拾い

海浜植物

- ハマエンドウ : 花が20輪程度咲いている。つぼみもあちこちに見られる。緑が濃くなり葉も広がってきた。
- ハマゴウ : 枝の節目に新芽が見えてきた。

ハマヒルガオ：保護区や浜にも新葉が広がり、つぼみがついてきた。



ハマエンドウ



ハマヒルガオ



ハマゴウ

■2023年5月2日(金) 9時30分～11時30分

天候:晴れ 気温:19℃ 参加者:6名 琵琶湖の水位:+17cm

観察状況

- * 天気は良いが風が少し冷たく強い。対岸の山々が見える。
- * 波が押し寄せ水は濁っている。沖合の色は青くきれい。
- * 暖かな日差しと冷たく強い風を感じた作業日。
- * ネナシカズラは見当たらない。

活動内容

- * ミーティング (5/19 活動訪問 ・ 6/17 研修の件)
- * 除草 前回に引き続きツルニチニチソウの根の掘り起こし・浜の除草

海浜植物

ハマエンドウ : 花が一斉に咲き出した。つぼみも見られる。特に、中央の通路側に広がり、開花が見られる。緑が濃くなってきた。実験中の草の中や太陽が当たって松の木が陰を作る場所の生育が良い。レンゲソウの設置により、モンシロチョウやテントウムシ等が飛来している。ハマエンドウの花にも留まっていて受粉による種子が期待される。

ハマゴウ : 枝の節目の新芽が大きくなり根元には葉が広がり始めた。

ハマヒルガオ : 保護区や浜にも新葉が広がり、つぼみがついてきた。公衆便所の生け垣と浜の西側に花の開花が見られた。



ハマエンドウ



ハマヒルガオ



ハマゴウ



3. 生活実験工房からのお知らせ

5月の田植えイベントは残念ながら、雨で中止となりました。そこで、今年は博物館の職員で田植えを行いました。また、工房に偶然居合わせた近江はたおり探検隊の皆様にもお手伝い頂きました。ありがとうございました。

さて、皆さん、「さなぶり」という行事をご存知でしょうか。それは無事田植えを終えることが出来たことを神様に感謝し、また田植えの労をねぎらうために催される宴のことを指します。

とある農家ではゴールデンウィークに家族総出で田植えを行い、田植えを終えた夜はBBQを行うそうです。「さなぶり」という行事も、農業のスタイルや価値観の変化とともに、時代に合わせて変化しているのかもしれませんがね。



5/10 田植え

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 7月30日(日) 昆虫採集
- 9月3日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月8日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
- 12月17日(日) しめ縄づくり
- 2月4日(日) わら細工



5/22 苗は順調に育っています

担当：環境学習・交流係

4. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。